

# のびのび



2020年度校長室だより 第3号 令和2年6月 3日

湯田小学校のキャッチフレーズ：あしたも会おうね 温かい学校 ～ 学び合い ～

2020年度チャレンジ目標：湯田小ABC 合い言葉：やさしい言葉がひびきあう

学校再開1週目を振り返って

校長 伊藤 豊

「子供たちの声が響く学校になってきたか？」これが、今一番大切な評価の基準です。校長室だよりでお伝えしてきたように、これまで学校は、長く静けさを保ってきました。学校が臨時休業する時は、非常時しかありません。周囲の穏やかな気候とは相反する事態に、学校は力を失っていました。「自粛」という言葉には、なんだか人を締め付けるような、互いを牽制し合うようなイメージを感じます。大人も子供も、世の中さえも弱っていました。

しかし、社会総がかりで「自粛」しました。一人一人が自分の、お互いの、顔を知らない誰かのために我慢しました。がんばりました。その結果、学校を無事再開することができたのだと思います。

新型コロナウイルスの感染拡大を防止するために、学校でできることや家庭にお願いしたことを、それぞれが可能な限り行っています。その一部は、学校だよりでもお知らせしたとおりです。先日、臨時休業で抜けた授業日を補うべく、夏季休業の短縮が山口市教育委員会から伝えられました。昨年までと比べると、いろいろ思うところが生まれます。

しかし、これまで我慢してきた「みんなと過ごす、みんなで学ぶ」機会が増えたと考え、楽しい気持ちにもなります。本校の教育課程（学習や生活に関して、計画的に教えるための時間・日数）は、文部科学省が定めている標準よりもかなり余裕をもって計画されています。臨時休業により、本来計画していた時期と少しばかりずれますが、年間で見通した時には内容が大きく失われるものではありません。各学期のとらえも、含まれる月数で異なります。例えば、これまでの1学期は、「4～7月」の4ヶ月でしたが、今年は、「6、7月」の2ヶ月余りとならざるを得ません。その分、2学期が長くなります。子供たちに不都合が生じないように、指導の順番は変更して、時間配分の強弱もつけながら進めています。後は、冒頭の「子供たちの声が響く学校になってきたか？」です。これは、単に、子供の声がするという意味合いではありません。学校生活、学ぶことに対して子供たちの歓声が聞こえてきたか、集団の中で仲間を思いやる「やさしい



担任から児童への励ましメッセージ

言葉」が響き合っているかという、学校生活の充実度を上げるべく努力しなくてはならないと思っています。新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、これまでも、これからも我慢をしなくてはならないことはあると覚悟しています。気持ちはあっても実現が難しいことも想定しています。将来のある子供たちをお預かりしているわけですから、今は我慢を説く必要も大人の責任だと考えています。数々の制約や困難に押しつぶされるのではなく、「子供たちの声が響く学校になってきたか？」と常に問いながら、保護者や地域の皆様と共に学校運営を続けていきたいと思ひます。



遮光しながら換気を行う工夫

### 子供たちの学習に向かう姿勢について

臨時休業中、子供たちの学習の充実をどのように図っていいのか？これは、大きな課題でした。何せ学年はじめ。1年生は、小学校生活を始めたばかりです。中・高学年は、これまで学校で学んできた経験、学び方を活用していけば、自分自身で学ぶこともある程度できるだろうと考えました。

しかし、低学年はどうだろうかと、家庭学習を準備する段階で本当に悩みました。真っさらな教科書は与えられても、学び方がわからないとどうしようもできません。先般、教育委員会の要請で、ご家庭で子供たちが使えるICT機器（パソコン、タブレット、スマホ等）の準備状況をお尋ねしました。本校は、約20%のご家庭で、日中は、保護者が仕事等に使用するために準備ができない状況でした。報道で言われるような遠隔授業にはもう少し時間がかかりそうでした。

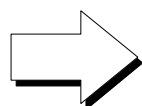
さて、こうした時に力を発揮するのが、子供の自主学習力や学習習慣です。「言われて動く、与えられた宿題だけ行う」という姿から「自分から学ぶ、学ぶことが当たり前」という学習に向かう姿勢へのチェンジです。これは、そう簡単にはできません。ですから、日々、少しずつ努力していくことが必要になります。

平成29年度末に作成された「湯田小中連携カリキュラム」にも「学年×10分間の家庭学習時間の定着」が示されています。湯田中学校でも同じ取り組みを進めています。このたびの臨時休業では、中・高学年の児童がこうした取り組みの成果を発揮してくれています。本校では、自主学習力育成のために、毎年、家庭学習の手引きを低・中・高学年別に作成してお配りしています。近日中にお配りできると思ひます。保護者の皆様も手にとってご覧いただきたいと思ひます。

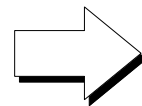
以下は、湯田小中連携カリキュラムに示されている「家庭学習に関する家庭の役割」です。

湯田の子は **きちんと宿題やっています**（小中連携カリキュラム7つ（にじ色）のキャッチフレーズより）

（低学年）  
子供の学習に寄り添う。



（中学年）  
子供の家庭学習の習慣を  
定着させる。



（高学年）  
子供の自主的・計画的な  
家庭学習の習慣を促す。